



てしかがえこまち推進協議会UD(ユニバーサルデザイン部会)弟子屈UD(ユニバーサルデザイン部会)では、みんなに優しい観光のまなづくりを目指して、さまざまな活動を行っています。

ユニバーサルデザインとは、年齢や性別、障がいの有無などに関係なく、できるだけ多くの人が利用できるように工夫して、ものや環境などをデザインしていくこと。段差のない床や車椅子でも利用できるトイレなどもユニバーサルデザインの1つです。

同部会では昨年、視覚障がいのある方、人工透

析が必要な方向けの旅行プラン「ハートフルツアー」を実施しています。

高齢者の方や体の不自由な方、さまざまな理由で心を病んでいる方などにも、弟子屈の豊かで素晴らしい自然環境を満喫してほしい。そんな部会員の長年の願いを具現化したのがハートフルツアーです。

旅行中の安全・安心へのサポートは部会員が行っています。

6月6～9日の3泊4日、視覚障がいのある方のハートフルツアーが行われました。今回の旅人は千葉県から来た山辺なつえさん(40歳)。部会員のサポートのもと、カヌーでの釧路川下りや乗馬など、道東らしい体験を満喫しました。山辺さんは「北海道の緑豊かな自然に圧倒されたこと、山辺さんは「北海道の歴史・風土などについて学ぶことを決めました。

講座は部会員だけでなく、一般の方も受講できます。詳細が決まり次第お知らせしますので、興味のある方は、ぜひご参加ください。

同部会では今後、てしかがトラベルヘルパー養成講座を開催する予定です。

トラベルヘルパーとは、移動や体験活動といった日中活動時(入浴やトイレ介助などは除く)に、障がいのある方をサポートする人のこと。ハートフルツアーにサポーターとして参加した部会員から「サポートの基礎知識を習得したい」などの声が上がったことがきっかけで、援助の基本や安全管理、弟子屈の歴史・風土などについて学ぶことを決めました。



カヌー体験に笑顔の山辺さん(右)

れました。屈斜路湖、釧路川の水のきれいだっただこと！何よりも、弟子屈の皆さんの心のこもったおもてなしに、感謝の気持ちでいっぱいです」と話していました。

もっと心地よい旅をおもてなしを勉強

同部会では今後、てしかがトラベルヘルパー養成講座を開催する予定です。トラベルヘルパーとは、移動や体験活動といった日中活動時(入浴やトイレ介助などは除く)に、障がいのある方をサポートする人のこと。ハートフルツアーにサポーターとして参加した部会員から「サポートの基礎知識を習得したい」などの声が上がったことがきっかけで、援助の基本や安全管理、弟子屈の歴史・風土などについて学ぶことを決めました。講座は部会員だけでなく、一般の方も受講できます。詳細が決まり次第お知らせしますので、興味のある方は、ぜひご参加ください。

観光協会だより

ツツジと芝桜の法被で、広域観光をPR

摩周湖観光協会(木暮敏男会長)では6月1日、大空町の東藻琴芝桜まつり会場で、同町と本町の広域観光の象徴としてデザインされた法被のお披露目を行いました。

5月の東藻琴芝桜から6月の川湯温泉イソツツジへつながる花街道というイメージで、両町の観光協会が連携協力して観光を



しばざくら祭り会場で広域観光アピール(右)馬車に揺られて川湯を楽しむ(上)

つツツケ原フェスティバルのオープニングセレモニーを6月15日、JR川湯温泉駅前で行いました。フェスティバルは、硫黄山の麓に広がるイソツツジの群生地・つツツケ原の散策の後、馬車での帰路を楽しんでもらう企画で、6月15日から30日まで毎日運行。セレモニーには、東藻琴観光協会の深川昇会長も駆けつけ、広域観光デザインの法被を来てエールを交わしました。

セレモニー後、最初に運行された馬車には徳永町長をはじめ、観光客や地元の方々が乗車。あいにくの雨模様ではありましたが、駅前から硫黄山を通り、川湯温泉街までの約30分の道のり。のんびりと馬のひづめの音を聞き、新緑の木々や白くかかれんイソツツジを眺めながら、楽しんでいただきました。

問い合わせ先/一般社団法人摩周湖観光協会 ☎ 4 8 2 - 2 2 0 0

地域の役に立ちたい 社会貢献いろいろ

株式会社佐藤建設工業(佐藤洋司代表取締役)の皆さんが5月19日、摩周観光文化センターのソフトボール場と運動広場の整備を行いました。例年この時期に行っているもので、今年で5回目。タイヤショベルで表土をはがし、タイヤローラーで転圧したほか、ネットの張り付けを行いました。



クニオカ工業株式会社(今誠代表取締役)と株式会社今道建設工業(同)の皆さんが5月24日、900草原入り口2キロ区間と町道釧路川右岸沿線8キロ区間の清掃を行いました。毎年行っているもので、道路の清掃とごみ拾いを丁寧にしました。今代表取締役は「毎年行っているため、年々ごみの量も減ってきている。今後も継続したい」と話していました。



辻谷建設株式会社(辻谷智之代表取締役)と協会の皆さんが6月5日、川湯温泉街を流れる湯川排水路周辺で、管理道路の立ち木の伐採や草刈りなどを行いました。川湯温泉を訪れる観光客の方を気持ちよく迎えたいと毎年行っています。約40人が参加し、3班に分かれて丁寧に作業を行いました。



東星渡部建設株式会社(山村五十三代表取締役)の皆さんが6月16日、川湯駅前公園や緑団地広場などで除草作業で出た草の除去を行いました。地域の環境整備のために行ったもので、約10人が参加。トラック2台分の草を回収しました。



弟子屈町森林組合(山本保紀代表理事組合長)の皆さんが6月18日、羽田里山公園の野草刈りを行いました。この日は6人が参加し、伸びた草を丁寧に刈り取りました。



えこまち通信

ツリーイングで豊かな自然を体験

てしかがえこまち推進協議会A&A(アート&アド)部会(行木衆児部会長)は、芸術による地域活性化を目指す部会です。これまでに、アートフェスティバルなど、さまざまな企画を行っています。

5月18日には「てしかが極寒ARTフェスティバル 春の巻」を川湯温泉街で開催。50人が多彩な催しを楽しみました。子どもたちは、ロープを使った木登りワークショップに夢中。これはツリーイングと呼ばれ、子どもたちに自然を守り、親しむ心を育ててほしいと行われたもの。知床山考舎・滝澤大徳さんの指導のもと、挑戦しました。



ツリーイングに挑戦



道の駅摩周温泉企画展 7月

極寒芸術伝染装置 第①幕 貧乏BAてしかが展 /善/ZEN 弟子屈を「極寒」というイメージでくくってみる。 第①幕は古い旅館から見つかった、旅人が描いた絵画やスケッチを展示。温泉町の音や映像を交えた空間芸術で弟子屈を表現する。

古い施設をアートで再生

てしかがえこまち推進協議会アート&アド部会では「てしかがARTばらばら計画」のスポンサーを募集しています。 町内の店舗シャッターや外壁、ホテルの部屋など、古くなったり、傷んだり、汚れたりしているところを、芸術家の力を借りて美しく再生する企画です。 作品は2015年2月のてしかが極寒ARTフェスティバルで公開しますので、期間中1週間程度、公開協力して下さることが条件です。 スポンサーを担っていただける会社や個人の方は、てしかが極寒ARTフェスティバルのホームページ(<http://acaf.teshikaga.asia>)からお申し込みください。締め切りは7月7日(月)です。

問い合わせ先/てしかがえこまち推進協議会事務局(役場観光商工課観光振興係内) ☎ 4 8 2 - 2 9 4 0 (課直通)